

所属・資格 体育学科・准教授

申請者氏名 城間 修平

研究課題		バスケットボールにおけるプレイヤーの実践知識 ーインサイドプレイヤーに着目してー
報告の概要	研究目的 および 研究概要	バスケットボールを対象とするコーチング研究では、実践現場（＝ゲーム）で何が行われているかを明らかにするために、各要素に分解して数値化し、比較・検証する（吉井、1990）自然科学的方法が多く用いられてきた。また他にも、選手の持つ動きのコツやカンなどを知識化し、実践現場に提供しようとする研究も示唆される。それらを下敷きに類化された知を提出するのであれば、さらなる蓄積が求められる。そこで本研究は、バスケットボールのゲーム中に出現する、合理的且つ効率的なファストブレイク攻撃を行う際のガードプレイヤーの準備局面における実践的な知識について、「語り」から検証することである。
	研究の結果	<p>（Case1.） <u>Tと2対1で攻めようと考えてが、相手の選手が思っていたより早かった。それと同時に、Tの方は55番がディフェンスをしにいていたので、それを囿にした。Tも観ていて2対1を作りたかったけど、後ろから追いつくなど距離的に思っていたので、そこを囿にして自分がシュートを打つと仕向けて後はパスを出すだけだった。</u></p> <p>（Case2.） ディフェンスはどのようなパスが来るかはある程度予測していると思うので、自分はその裏を描くように素早いパスを出すことであり、相手に追いつけないような山なりのパスを出すようにしている。あとはディフェンスの向きにもよる。見方が相手方にスピードで負けないようなシーンではパスを出している。</p> <p>（Case3.） Y選手：ここではいつでもパスを出せるようにドリブルをしながらスピードを出して右に切り返したときに勢いをつけて投げられる、と思ったのでタイミングを合わせて投げました。右利きなので右で出したほうが正確であり、パスカットされるリスクも低いからである。</p>
	研究の考察・反省	本研究の対象者であるガードプレイヤーAは、 <u>その場に応じた情況「①空間的 ②時間的 ③距離的」を軸に自身で瞬時に意図的に情況を操作し、ゴールにボールを進めて行くことで、素早いファストブレイク攻撃を成功へと導いていた。</u> 今後は、今回の考察内容を下敷きに更なる類化された知見（特にポジション別：センター、フォワードに分けるなど）を調べ、知の蓄積を行う予定である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>【研究発表】</p> <p>学 会 名：日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会 発 表 テーマ：「バスケットボールにおけるファストブレイク攻撃時の準備局面に関する実践的知識 ーガードプレイヤーに着目してー」 年月日/場所：2024年8月31日 福岡大学</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>【研究成果物】</p> <p>テ ィ マ：大学バスケットボール部の地域連携活動が小学生・保護者・学生に与える影響に関する事例的研究 誌 名：大学地域連携学研究 発行年月日：第4巻 2025年3月20日 発 行 所：大学地域連携学会</p>	